

群 教 セ	G01 - 04
	平 30. 269 集
	国語一高

「国語総合」における根拠に基づいた文章読解ができる生徒の育成

— 一枚ポートフォリオを活用して学習を振り返り、見通しをもたせることを通して —

特別研修員 町田 裕記

I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領の総則第5款5（5）には、「生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること」とある。また同じく国語編「国語総合」には、C読むこと（1）エとして「文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること」とある。

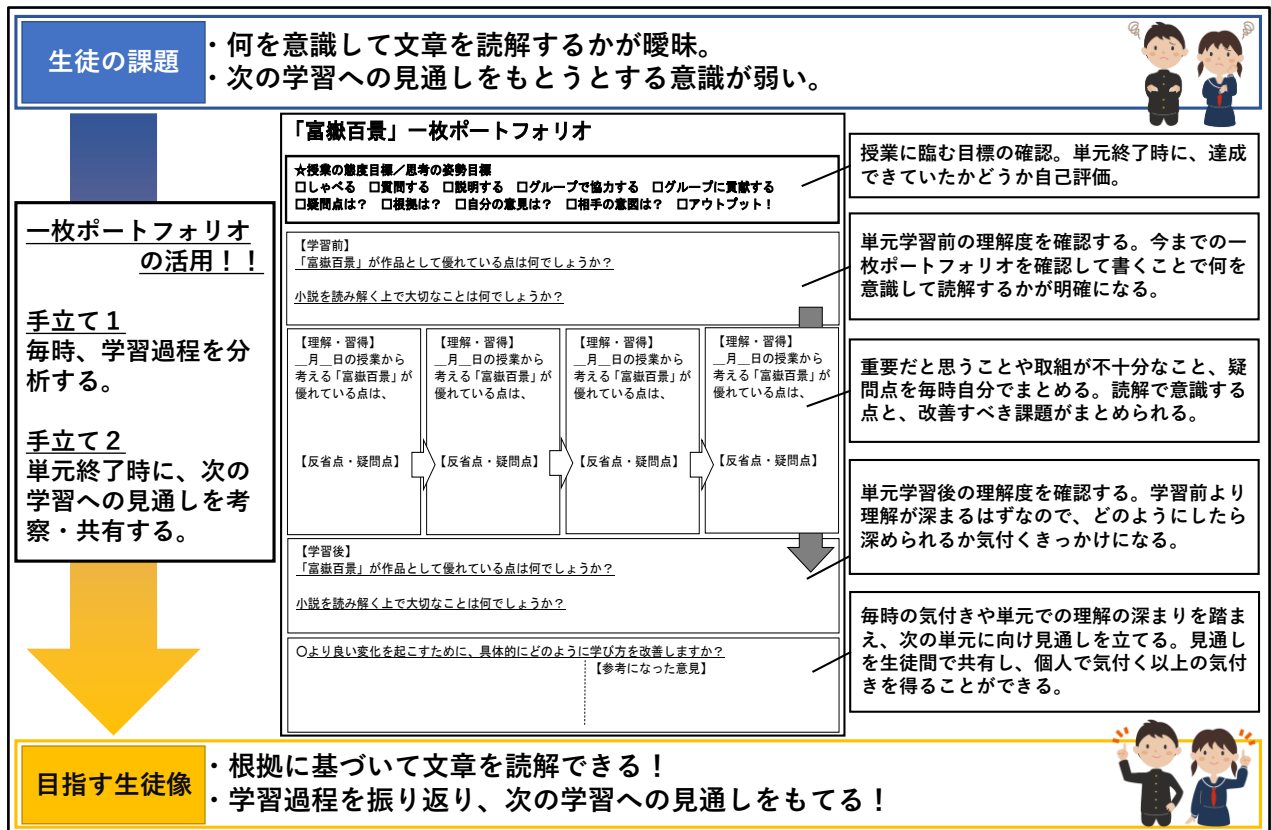
研究協力校の生徒は学習意欲こそ高いものの、文章読解においては、感覚的な理解にとどまる傾向にある。原因としては、根拠に基づいて文章を読解していたかという学習過程を振り返る機会がないことが挙げられる。そのため、各授業時や単元を通じて何を学びどのような力が身に付いたか認識できず、次の学習に向けて見通しを立てる習慣も身に付いていない。

そこで、一枚ポートフォリオを用いて、授業内で振り返りを実施する。授業では、一つ一つの表現の意味を考えることで、根拠に基づいて登場人物の心情を分析することを生徒に求める。生徒は振り返りを通じて、自らが根拠に基づいて文章を読解できていたか否かを検証し、次の学習への見通しを立てることができる。

以上の理由から、「『国語総合』における根拠に基づいた文章読解ができる生徒の育成」というテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

手立て1 毎時、理解したこと、生じた疑問、取組を基に反省をまとめ、学習過程を分析する。

一枚ポートフォリオを用い、授業で扱った内容を基に文章の優れている点を毎時考察させる。生徒がその過程で生じた疑問を記録することで、より主体的に文章に向き合うよう支援する。また授業内容を理解する上で、生徒自身の学習が十分であったかを振り返る機会を設ける。

手立て2 単元終了時、次の学習につなげるために、学習の見通しを立て、生徒間で共有する。

一枚ポートフォリオを用い、単元開始時と終了時に同じ設問に解答させる。解答内容の変化を通じ、文章に対する理解の深まりを意識させる。これを踏まえ、文章を理解するためにどのような手段が有効であったかを明らかにするために、学習過程を振り返る。有効な手段をまとめた上で、生徒間で次の単元への見通しを共有する。これにより、一人では気付けない課題に気づき、より多くの見通しをもつ契機とする。

なお実践例は小説の単元であるが、現代文、古典を問わず、授業で扱う各単元において一枚ポートフォリオを活用している。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 6月の第1回実践授業で扱った小説である「羅生門」における記述と10月に実施した第2回実践授業で扱った小説である「富嶽百景」における記述を比較し、小説を学ぶ上で生徒が立てた見通しを具体的に分析した。結果として「本文中に根拠を求める」意識が非常に強くなった。「正解が何かではなく、正解にどうたどり着くかが重要」という生徒の記述からは、根拠に基づき読解する姿勢を身に付けたことが読み取れる。さらに「具体的な描写から心情を考え、心情の変化まで読み取る」という記述も見られ、単純に「心情に注目する」という記述が減り、「心情変化を意識する」ことの重要性を指摘する記述が増加した。同様のことは、「表現を解釈する」と「抽象的な表現を具体的に考える。具体的な表現を抽象化してまとめる。」でも見られ、見通しの質が向上した様子が見られた。

項目	羅生門 (40人中)	富嶽百景 (40人中)	増減
本文中に根拠を求める	5人 (13%)	22人 (55%)	+17人 (+42%)
心情に注目して、読解する	28人 (70%)	25人 (63%)	-3人 (-7%)
作品全体での心情変化を意識する	11人 (28%)	20人 (50%)	+9人 (+22%)
表現(比喩・情景描写)を解釈する	19人 (47%)	25人 (63%)	+6人 (+16%)
抽象的な表現を具体的に考える	0人 (0%)	13人 (33%)	+13人 (+33%)
具体的な表現を抽象化してまとめる			

- 「富嶽百景」の学習において、小説の学習に対する見通しとして生徒が自ら挙げた個数は、平均 3.4 個であった。「羅生門」の際は、平均 1.7 個であったことから、以前より学習に対して見通しをもてるようになったと考えられる。上記の見通し以外では、「冒頭からどんなテーマかを意識して読むようにする」といった作品の主題理解に大きく関わる記述も見られた。また生徒間で見通しを共有した際の記録を分析すると、他の生徒から学んだ内容として平均 3.5 個が挙げられた。自分で考えるだけより多くの見通しをもつことができ、生徒同士で見通しを共有することに意味があると言える。

2 課題

- 振り返りを分析したことで、学習に対する見通しをもつことが苦手な生徒がいることが明確になった。これらの生徒は、見通しが1、2個しか挙げられていない。見通しの前提となる学習上の課題分析ができていない可能性がある。また、共有時に他の生徒の見通しを記録していない傾向もあり、どのような見通しが自分にとって役立つのか適切に判断できていないと思われる。全体に共通すべき課題や優れている見通し、重要な気付きは、教師から紹介する必要がある。新たな見通しをもって、生徒が自身の学習過程に自覚的になれるように指導することが今後の課題である。

実践例

1 単元名 「富嶽百景」 (第1学年・2学期)

2 本単元について

本単元では、太宰治の小説「富嶽百景」を読解した。主人公である「私」の心情を場面ごとに理解しつつ、作品全体を通して「私」がどのように変容するかを論理的に考察する。小説家である「私」が富士山との関係の中で美について悩むが、その悩みはもう一つの悩みである人間関係とも密接に関係している。まず一つ一つの表現に根拠を求め、「私」の心情を正確に理解する。その上で、「私」自身や悩みがいかに変容するか、悩みと悩みの関係を明らかにしながら読むことが求められる。「私」の変容を正しく把握するためには、毎時学習したことをまとめ、場面同士のつながりを理解しておくことが非常に重要である。

本単元は難解な部分はあるが、小説を読解する上で重要な要素を多々含んでいる。したがって学習内容をまとめておくことで、他の小説を読解する際にも知識・技能を活用することができ、見通しをもち、学習方法を改善することにつながると想定される。

以上のことから、以下の指導計画のとおり本単元を構想し実践した。

目標	根拠を求め論理的に読解を積み重ね、さらに振り返り活動を行うことで、小説の読み解き方を習得するとともに、小説を学ぶ重要性や意義を理解する。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 本文中の根拠に基づき登場人物の心情を意識した上で、小説を読もうとしている。 周囲との対話の中で、自らの考えをよりよいものにしようとしている。
	読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 人物像やせりふ、情景等に注意し、本文に根拠を求めた上で心情やその変化を読み取っている。 作品におけるモチーフの描かれ方の変化を通して、作品の冒頭と結末における人物の内面の変化を読み取っている。
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 文脈における語句のニュアンスが、表現上特別な効果を生むことがあることを理解している。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	<ul style="list-style-type: none"> 一枚ポートフォリオの【学習前】「『富嶽百景』が小説として優れているところはどこか?」「小説を学ぶ上で重要なことは何か?」に解答する。 富士に対する「私」の評価と、「私」の抱える課題について考察する。
	第2～5時	<ul style="list-style-type: none"> 作品の各場面において、「私」の富士に対する評価の変化や周囲との人間関係を根拠としながら、「私」の心情を考察する。
まとめ	第6時(本時)	<ul style="list-style-type: none"> 作品の結末で「私」が富士に用いた比喩に注目し、比喩を考察することで、作品全体を通じての「私」の変化を理解する。 一枚ポートフォリオの【学習後】「『富嶽百景』が小説として優れているところはどこか?」「小説を学ぶ上で重要なことは何か?」に解答し、作品や学習に対する自身の理解の変化をまとめる。 今後の学習に対する見通しについて、班で話し合い、共有する。さらに、優れた意見を全体に発表して、クラス全体で共有する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は、全6時間計画の第6時に当たる。第1時では、主人公である「私」が抱える課題を明らかにすることで、作中において注目すべき箇所を考察した。第2～5時では、具体的に作品の各場面を読み解き、作中に根拠を見いだしながら心情を解釈した。それを踏まえ本時では、作品全体を通じて「私」の変化を明らかにする。具体的な手立てとして、最後の場面で「私」が比喩を用いて富士を表す際に、どのような比喩がふさわしいか考える活動を行う。比喩やそこに込められた心情を解釈する中で、作品全体を通して「私」の心情がいかに変化したかを考察し、最終的に作品の主題を理解することを目指す。その上で一枚ポートフォリオを用いて、学習過程を分析する。本単元を通じどのようなことを学んだかを改めて確認することで、今後小説を学習する上でどのように取り組むか見通しを立てる。さらに、より多くの見通しをもてるように、個人で立てた見通しを班や全体で共有する。

4 授業の実際

(1) 前時まで

生徒は単元導入時に、「羅生門」学習時に作成した一枚ポートフォリオを参考にしながら、「『富嶽百景』が小説として優れているところはどこか?」「小説を学ぶ上で重要なことは何か?」という二つの問いに解答している。また物語の結末を読んでしまわないように、結末が掲載されているページをホチキス留めにした。前時まで、根拠を明確にしながら悩みを中心に「私」の心情を考察した。毎授業時の終末では、一枚ポートフォリオを用いて振り返りを実施した。さらに本時に向け、作品の最後で「私」が富士をどのような比喻を用いて表したかを、生徒は予習として考察してきている。

(2) 導入

授業の導入では、目標を明確に提示した。本時の設問は生徒が考える自由度が高いため、ややもすると思いつきのような解答になりかねない。それを防ぐために、「描写に意識を向けること」「作品全体を通して『私』の心情の変化を考察すること」が、比喻を考える設問の意図であることを再確認した。また必要に応じて既習内容や前時までの振り返りを再確認し、検討の材料にするよう指示した。

(3) 比喻の検討と作者の意図の説明

各自が予習してきた内容を基に、どの比喻がふさわしいかを班で協議した。班での協議では各自の考えを述べる際に、本文のどこを根拠とし、どのように考えたかを論理的に説明する姿が見られた。意見を聞き検討する際も、根拠を明確にしながら比喻が適切かどうかを判断していた。

その後、班での協議を基に、各班の意見を全体で共有した。生徒からは、本文中の他の比喻に注目した意見や「私」の悩みが解消しつつあることを踏まえた意見、「私」の人間関係を反映した意見が出された。いずれの意見についても、生徒は本文中にある根拠を踏まえながら、比喻表現が妥当であると結論付けた理由を全体に説明することができた。

さらに、実際に作者が書いた比喻の意図を教師から説明した。読み飛ばしてしまいそうな些細な比喻だが、作品冒頭との対比や作品全体を通した「私」の変化を意識し根拠とすることで、場面にふさわしい比喻になっていることを生徒は実感したようであった。

<p>○教科書 一三二頁(袋綴箇所)</p> <p>二人声をそろえてお礼を言う。うちへ帰って現像してみたときには驚くだろう。富士山だけが大きく写っていて、二人の姿はどこにも見えない。</p> <p>そのあくる日に、山を下りた。まず、甲府の安宿に一泊して、そのあくる朝、安宿の廊下の汚い欄干に寄りかかり、富士を見ると、甲府の富士は、山々のうしろから、三分の一ほど顔を出している。 X に似ていた。</p> <p>問、空欄 X には、主人公が富士を例えた表現が入る。相応しい比喻を考えて答えよ。また、その根拠も示すこと。 (比喻・根拠は複数考えても良い)</p> <p>【比喻】 茶店の娘さん に似ていた。</p> <p>【根拠】 「娘さんを美しいと思った。」(一三〇頁) 「私」は富士が美しいという考えに変わっている。 「私」は茶店の娘さんのおかげで「人間関係」が変わり、富士山のおかげで「芸術観」が変わっている。 つまり、茶店の娘さんと富士山は、存在が似ている。</p>	<p>○印象的な意見の記録(班・全体)</p> <p>「真っ白な睡蓮の花」 (1班) ・ 通俗的な富士への尊敬、肯定 ・ 素朴な美+通俗的な美 (4班) ・ 三分の一ほど見える十山頂に白い雪 ・ 娘さんの家で見えた写真に似ている 「甲府の娘さん」(2班) ・ それほど主張していない点が共通 「守護霊」(3班) ・ 富士は霊山 ・ 富士への信頼 「月見草」 (4班) ・ 通俗的な富士に対峙するもの ・ 美として重なる部分がある (7班) ・ 三分の一ほど…→東京の富士と重なる ・ 富士に力強さを感じるようになった 「仏様」(8班) ・ 遠くから見守っている ・ 神々しさ 「亀」(9班) ・ おめでたい ・ 悩みとの距離をゆっくり縮めた 「私」(10班) ・ 山々「私」の悩み ・ 三分の一の悩みが解消しつつある</p>
---	--

生徒が記述したワークシートの例

(4) 個人の振り返りと共有

本単元で学習した内容を、一枚ポートフォリオを用い、まず個人で振り返った。単元学習前にも解答した「『富嶽百景』が作品として優れている点は何か」という問いに改めて解答することで、作品に対する理解の深まりを生徒に自覚させた。学習前では、そもそも記述できていない生徒や「細かなところまで書かれている点」といった具体性のない表面的な記述が目立った。学習後には、「『私』が他人との関わり合いの中、悩みを解決していくという心情の変化を巧みに描いている点」や「物語が進むにつれての『私』の心情の変化を富士や月見草を用いて細かく表し、最初と最後の心情の対比をきれいにまとめている点」といった記述が見られ、内容を理解した上で作品のもつよさをまとめている。さらに作品に対する理解の変化がなぜ生じたかを踏まえ、小説の学習で重要な点をまとめた。それに加え、今後の学習に対して具体的にどのような見通しが立てられるか個人で考察した（生徒が実際に作成した一枚ポートフォリオについては、「6 資料」を参照）。

個人での考察を踏まえ、班で今後の学習に対する見通しを共有した。自分だけでは考察できなかった内容に他の生徒の発言から気付き、ワークシートに記録する様子が見られた。各班で共有した見通しを踏まえ、クラス全体でも共有を行った。生徒からは、「『私』の抱える課題の解消と個々の表現の関係を意識する」「作品冒頭から最後への変化を、場面を比較して考える」「比喩表現は色々な要素を含むので、具体的に心情を考える」など、班で挙げた具体的な見通しが出された。挙げられた内容からは生徒が、小説の一つ一つの表現に注目し、そこに根拠を求め、論理的に思考し作品を解釈しようとしている様子が見られた。

5 考察

作品の最後に登場する比喩の考案を設問としたことにより、生徒が解答の根拠として作品全体を振り返る姿勢が見られた。生徒は「仏様」や「甲府の娘さん」、「私」、「月見草」などの比喩を考案した。これらはいずれも「私」がよい方向に変化していることを意識したものであり、「私」の心情変化や悩みの変化を理解していることがうかがえた。グループワークで各自の比喩を検討したため、説明の際に根拠を付け加える必要性が強まった。説明の根拠が曖昧な場合には、班員が質問し根拠不足を指摘する場面も見られた。全体で比喩を共有した際は、なぜそのような比喩が妥当だと思ったのかを発表者は丁寧に話していた。独創的な意見に対しては、聞き手から質問が出る様子も見られ、比喩やそこに込められた心情を積極的に考察していた。

各自の比喩を考察した上で、作者が描いた比喩がもつ効果についての教師からの説明を聞いた。生徒は細かな比喩でも考えることが非常に難しいことを実感した後であるため、表面的ではなく、より深く作者の意図を理解しようとしながら説明を聞いていた。課題としては、作者がなぜその比喩を用いたのか生徒が考える時間を設けられず、教師からの説明で終わってしまった点である。その比喩を用いた理由を考察させることで、場面間の対比や比喩表現の巧みさをより効果的に理解させることができたと思われる。

小説の学習は、何を学んだか曖昧になりがちである。しかし今回の単元では、一枚ポートフォリオを活用し振り返りを行うことで、生徒は本単元の学習内容から重要だと思われる点を再度確認し、自己の学習過程を分析できた。その上で生徒は今後の学習をよりよいものにするには具体的にどうしたらよいか、見通しを記述した。そして班や全体で今後の学習への見通しを共有したことによって、自分一人では気付かなかったことを学び、より多くの見通しを立てられた。平均すると生徒は自ら3.4個の見通しを立てられ、他の生徒からは3.5個の見通しを学べた。この結果から、単元の学習内容を包括的に捉えることができる一枚ポートフォリオは、振り返りを行い具体的に見通しを立てる手段として効果的だと思われる。

今後の課題は、見通しを適切に立てられない生徒への支援である。一部の生徒は具体的な見通しが1、2個しか立てられず、生徒間での共有においても参考になった意見を記録していない。そもそも何が課題か気付いたり、課題の改善には何が必要かを考えたりすることが苦手な可能性がある。生徒間で見通しを共有するだけでは、このような生徒が見通しを立てるためには不十分である。したがって教師から生徒が考えた優れた意見を紹介したり、どのような見通しをもてるとよいかを確認したりする必要がある。これにより、具体的にどのような課題分析や見通しが必要だったか気付き、実践していけるよう支援する。

生徒が作成した一枚ポートフォリオの例

「富嶽百景」一枚ポートフォリオ

1年 組 番 氏名

☆授業の態度目標（できたものにチェック）
 しゃべる 質問する 説明する グループで協力する グループに貢献する 相手の意図は？ ロアウトプットしている？

【学習前】「富嶽百景」が作品として優れている点は何でしょうか？
 人々の共感を呼び、たくさんの人に読まれている。

小説を読み解く上で大切なことは何でしょうか？
 文章には表れていない場面設定や時代背景を念頭に置きながら読む。

【学習後】「富嶽百景」が作品として優れている点は何でしょうか？
 人生の中で、あるきっかけによって自分の価値観が変化したり、考え方が変わったりすることがあると教えてくれる点。
 小説を読み解く上で大切なことは何でしょうか？
 一文一文、一文字一文字に込められている状況や心情に気がながら読むこと。

【理解したこと・できたこと】
 10月15日の授業から考える
 「富嶽百景」が作品として優れている点は、
 作者自身の悩みが読者の悩みと重なり、共感できる部分があった。

【授業の反省点・疑問点等】
 今回は心情を文章中から見つけたり拾ってきたりするのが難しいと感じました。心情に関する文言にマークしながら読み進めていきたいと思っています。

【授業の反省点・疑問点等】

【理解したこと・できたこと】
 10月18日の授業から考える
 「富嶽百景」が作品として優れている点は、
 一文一文に複数の意味が隠されていたり、表現の対比によって心情の変化が現れているところ。

【授業の反省点・疑問点等】
 細かい表現から意味を推測していくところがたくさんあり面白かったです。ちょっとしたところも心情の変化が隠されているので、そこに注目して読んでいきたいです。

【授業の反省点・疑問点等】

【理解したこと・できたこと】
 10月18日の授業から考える
 「富嶽百景」が作品として優れている点は、
 悩みの解決を模索し、また物が解決への糸口になることを教えてくれている。

【授業の反省点・疑問点等】
 登場している一つ一つの物や人が与えている影響がとも大きく思いました。何気ないものでも何らかのメッセージが隠されているかと思っています。それが何を象徴しているのかを読み取れるようにしたいです。

【授業の反省点・疑問点等】

【理解したこと・できたこと】
 10月19日の授業から考える
 「富嶽百景」が作品として優れている点は、
 厳しい現実の中でどのような生き方ゆのかを考えさせられる。

【授業の反省点・疑問点等】
 自分もなぜ遊女の場面を入れたのかは謎だと思いました。でもあえて自分より厳しい立場の人を描くことで強くなるべきであるというメッセージがあるのではないかと思いました。（文章がまとまりませんが…）

【授業の反省点・疑問点等】

【理解したこと・できたこと】
 10月22日の授業から考える
 「富嶽百景」が作品として優れている点は、
 ふとした瞬間に悩みの解決の糸口を見つけられることもあることを示している。

【授業の反省点・疑問点等】
 主人公が悩みを解決したあと、東京でどんな展開が待っているのか気になりました。空欄×はとでも難しいと思いますが、いろいろな知恵をフル活用して考えてみたいと思います。

【授業の反省点・疑問点等】

【理解したこと・できたこと】
 10月29日の授業から考える
 「富嶽百景」が作品として優れている点は、
 【学習後】を解答する。

【授業の反省点・疑問点等】
 今回ほど丁寧に読み進めたことはありませんでした。今まではちょっと違った違いやなんだろうと思っただけでもスルーしてきてしまいましたが、そこに理解を深める力半が眠っているかもしれないと感じたので、ここにも注目して、読みたいと思いました。

【授業の反省点・疑問点等】

【授業の満足度】

⑤・4・3・2・1

【授業の満足度】

⑤・4・3・2・1

【授業の満足度】

⑤・4・3・2・1

【授業の満足度】

⑤・4・3・2・1

○またより良い変化を起こすために、どのように学び方を改善したら良いですか？

- ・今回のように心情に重点を置いて読んで読んだことはなかった。
- ・今回の学習で、心情の読み取りがいかにかに大切になってくるかがわかった。
- ・今後小説を読み進めていく上で、心情が直接書かれていないところ、前とは違う形で書かれているところ、なぜここにこのような表現がとひっかけた点にターゲットを当てるのが大切だと思った。
- ・抽象的な説明は具体的に説明し、具体的な説明は抽象的にまとめたいと思う。

○参考になった意見

- ・物語冒頭と結末の比較が重要。
- ・言いたいところと全体の対比。
- ・問題を解く上での過程。
- ・比喩が何を示しているのか？
- ・重要な点に印を付け、そこに絞って読む。
- ・解答を抽象化する。
- ・根拠を明確に。
- ・設問の意図をわかるように。